

ダニに注意！ ～沖縄県のリケッチア感染症～

夏になり、アウトドアを楽しむ方も多いと思いますが、虫刺されへの対策は万全ですか？ 山や草むらにはダニの仲間が潜んでいて、それらは体内にリケッチアという病原体を保有している場合があります。リケッチアとは、偏性細胞内寄生菌のひとつで、ダニなどの節足動物によって媒介され感染します。媒介するダニの仲間は屋内にいるダニとは種類が異なります。また、人から人へは感染することはありません。

リケッチア感染症は、いくつか種類があり、日本では古くから日本紅斑熱とつつが虫病の発生報告があります。しかしながら、沖縄県では十数年前に初めて確認された比較的新しい感染症で、あまり知られていないかもしれません。感染者数は多くはありませんが、治療が遅れると重症化することもあるので注意が必要です。ここでは、沖縄県におけるリケッチア感染症の発生状況と予防のポイントについてまとめました。

●日本紅斑熱

日本紅斑熱は、*Rickettsia japonica* というリケッチアを保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は2～8日で、主な症状は発熱、発疹（手足から全身に広がる）、刺し口のかさぶたです。テトラサイクリン系の抗生物質等による治療が有効です。西日本を中心に発生が多く、全国で年間

300例以上の報告があります。

沖縄県では2010年に沖縄本島で初めて確認され、2022年には八重山地域でも初めて確認されました。2023年6月までに7例の報告があり（図1）、そのうち6例は2～5月に発生しています。患者の性別は男性6名、女性1名で、年齢40～50代が4名で、約57%を占めています。

●つつが虫病

つつが虫病は、*Orientia tsutsugamushi* というリケッチアを保有するツツガムシ（小型のダニの一種）に咬まれることで感染します。潜伏期間は5日～2週間と長く、主な症状は発熱、発疹（胴体に多く手のひらには現れない）、刺し口のかさぶた、リンパ節の腫れなどです。日本紅斑熱と同様に、テトラサイクリン系の抗生物質等による治療が有効です。つつが虫病は東北から九州・沖縄まで広く発生が確認されており、全国で年間400～500例ほど報告されています。

沖縄県では2008年に宮古地域で初めて確認され、その後ほぼ毎年発生し、2023年6月までに45例の報告があります（図1）。発生は4～6月と10～12月に多く、患者の性別は男性28名、女性17名です。年齢は多い順に50代が12名、60代が11名、70代が10名、80代が8名、30代以下は4名です。

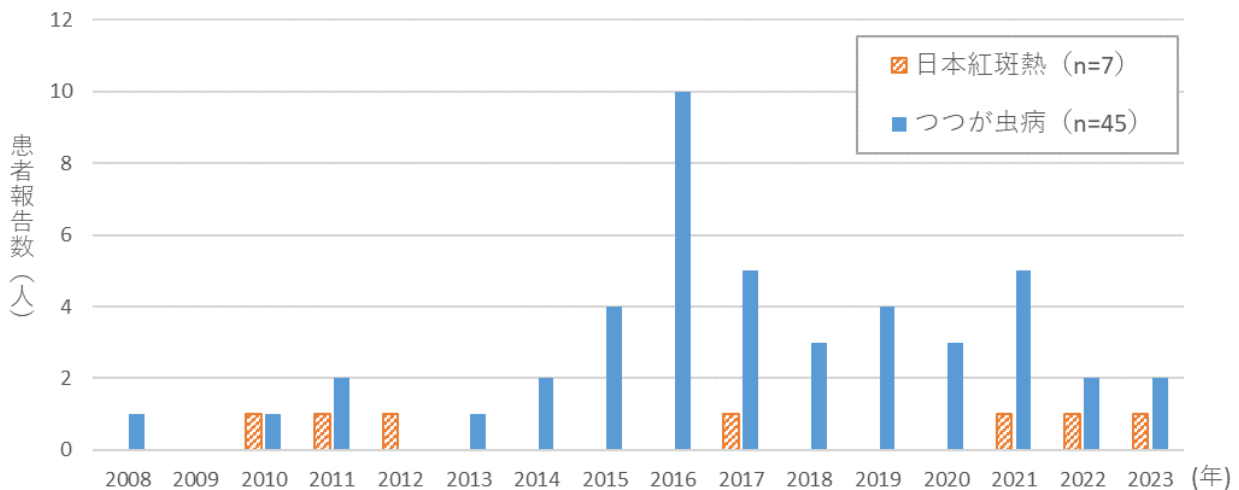


図1. 沖縄県の日本紅斑熱・つつが虫病の年別患者報告数

【予防のポイント】

ダニに咬まれないことが重要です。野外での活動を行う場合は、肌の露出を少なくし、ダニが付着しないように工夫しましょう（図2）。

- ◆長袖、長ズボン、襟のある上着を着る。または首にタオルを巻く。
- ◆ズボンの裾は、靴下や長靴の中に入れる。
- ◆シャツの裾は、ズボンの中に入れる。
- ◆虫除け剤を使用する。
- ◆地面に座るときには敷物をしく。
- ◆脱いだ上着は地面に置かない。
- ◆野外活動後はシャワーをあびる。
- ◆上着や作業着は着回さず、その都度洗濯する。

野外での活動後、1～2週間後に発熱や発疹の症状が現れたら、すぐに病院を受診してください。

また、自分の体に吸血中のダニを見つけた場合、無理にとるとダニの一部が皮膚に残ることがあるので、病院で処置してもらうようにしてください。



図2. ダニに刺されないための服装

（参考情報）

・〈注目すべき感染症〉ダニ媒介感染症：つつが虫病・日本紅斑熱

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jsf-m/671-idsc/idwr-topic/10703-idwrc-2136n.html>

・日本紅斑熱 1999～2019年

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jsf-m/jsf-iasrtpc/9809-486t.html>

・つつが虫病,2022年6月現在

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-iasrtpc/11415-510t.html>

【感染症研究センター】